

過去最高となったインドネシアへの直接投資

◆2016年の海外からの直接投資額は4.9兆円と過去最高

インドネシア投資調整庁は、2017年1月、16年の海外からインドネシアへの直接投資額が前年比8.4%増の396.6兆ルピア（約4.9兆円）となり、過去最高（ルピアベース）を更新したと発表した。インドネシア政府は、海外からの直接投資額を前年比5.6%増の386.4兆ルピア（約3.1兆円）とする目標を16年年初に発表しており、この政府目標も上回っている。

インドネシアの16年の実質GDP成長率は5.0%と、6%超の成長を続けていた10～12年当時からは成長率が低下している。しかし、ASEAN全体のGDPの35%超を占め、2.5億人を超える巨大な人口を抱える上に、全人口に占める生産年齢人口（15歳以上65歳未満）比率の上昇が続く人口ボーナス期が今後25年以上継続するインドネシア経済の魅力は高いものとなっている。

インドネシアへの直接投資額が増加している背景には、最近になってインドネシア政府が外資への投資許認可手続きの簡素化、迅速化を進めていることもある。15年1月に、投資調整庁はワンストップサービスを開始し、複数の省庁にまたがる投資許認可の窓口を一本化した。また15年9月より、1,000億ルピア（約8億円）以上の投資額、もしくは1,000人以上の雇用を生む大規模な投資案件については、投資調整庁は受付後3時間以内に、投資基本許可のほか、法人設立に必要な許可書類の発行をまとめて行うサービスを開始した。インドネシアの許認可手続きについては、これまでプロセスが不明瞭で時間を要する点が課題とされていたが、状況は大きく改善されている。

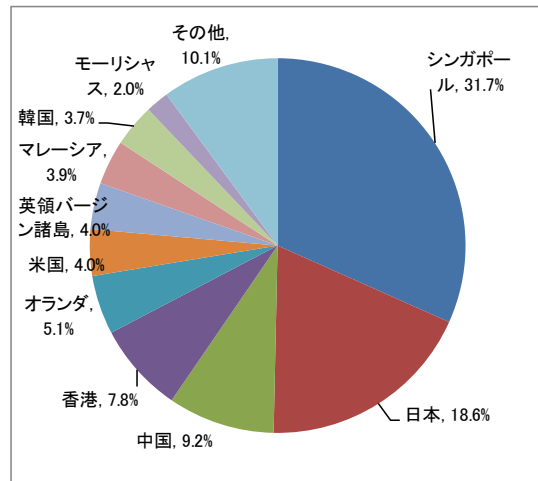
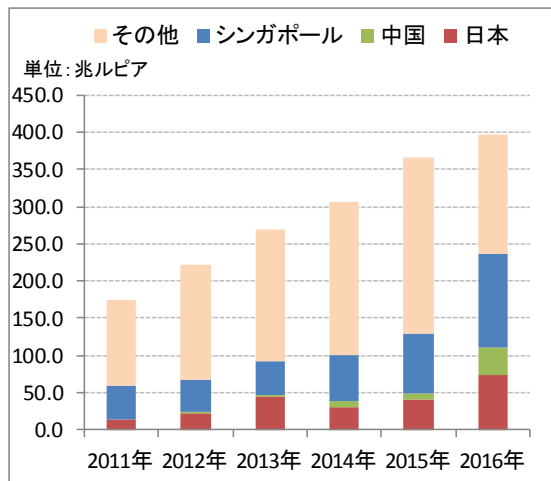
◆日本からの投資も過去最高を記録

海外からの直接投資額を国別にみると、16年の日本からの投資額は約55億ドルとシンガポールに次ぐ投資国となっており、日本からインドネシアへの投資額も過去最高を記録している。シンガポールからの投資には、日系や欧米系企業などのシンガポール子会社からの投資も多く含まれるとみられることから、実質的には日本がインドネシアへの最大の投資国となっている可能性がある。

日本からの投資の業種別内訳では、自動車・二輪（部品を含む）への投資額が最も多く、次いで化学・製薬、機械・エレクトロニクスの順となっており、組立・部品産業などの製造業の投資が多くなっている。

＜海外からの直接投資額の推移＞

＜2016年の直接投資額上位10カ国＞



(出所) インドネシア投資調整庁

◆急増する中国からのインドネシア投資

インドネシアへの投資国で16年に急拡大したのが中国だ。中国からインドネシアへの投資額は、15年は約6億ドルであったが、16年には約27億ドルと5倍近くに拡大している。中国の投資分野は、金属や食品、鉱物資源などが主であり、日本企業の主要な投資分野とは異なっている。

しかし、中国の自動車メーカーである上海汽車は、現在、ジャワ島に自動車組立工場を建設中であり、17年内に生産開始を予定している。上海汽車の工場の稼働が始まれば、中国系の自動車部品メーカーのインドネシア進出が進むことが想定され、日本企業の投資分野と重なってくる可能性がある。

16年の中国からインドネシアへの投資の急拡大が、一過性なのか今後も増加していくかは不明だ。しかし、日本車のシェアが95%以上を占めるなど日本企業の存在感が大きいインドネシアにおいて、中国企業の存在感が増し日本企業の手強い競合相手となっていくことが考えられる。また、インドネシアの主要な対日輸出品目には石油・天然ガス、銅鉱などがあるが、鉱物資源への投資を増加させている中国企業にこうした資源を押さえられる懸念もある。

【今村弘史】